

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2793000452		
法人名	株式会社コージーケア		
事業所名	グループホームリール小松		
所在地	大阪府大阪市東淀川区小松1-16-20		
自己評価作成日	令和4年7月6日	評価結果市町村受理日	令和4年8月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和4年7月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ひとりの人を大切に」と「共生」を理念とし、具体的な理念「みんなで協力」「みんなで笑顔」も掲示し、全職員で理解・共有しながらご利用者様・ご家族様・地域の皆様に安心・信頼して頂けるグループホームを目指しております。開設から9ヶ月を迎え、開設当初からの職員が中心となり、ご利用者様・ご家族様との関係も少しずつ関係も深くなっております。行事としてクリスマス会・初詣・節分(豆まき)・お花見を開催。お誕生日会やおやつレクも毎月行われ菖蒲園への外出にも行かれました。日常生活での楽しみも感じて頂けるように支援させて頂いております。医療面に関しては、医療機関と24時間連絡が取れ、ご家族様と直接連絡をとれる体制もあります。自治会へ月に一度程度から介護相談会の設置をご提案しております。またAED機器を設置し、地域資源として活用頂ければと思っております。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設9カ月を迎える新しい事業所である。共用空間は広く明るく清潔感があり、快適な生活環境である。コロナ禍の中での開設であるが、自治会の協力を得て、地域貢献に取り組んでいる。時期を勘案しながら、散歩・外出行事の機会を設けたり、玄関前のベンチでの外気浴や手入れの行き届いた花壇での水やりや美化活動等、戸外で活動する機会作りに努めている。行事食・郷土料理・おやつレクリエーション、季節のイベント・誕生会、毎日のレクリエーション・健康体操・家事参加・制作活動等、日常生活の中で楽しみや役割を感じながら、心身機能の維持・向上ができるよう取り組んでいる。「リール便り」を毎月発行し、インスタグラム・フェイスブックを頻りに更新し、写真・映像を活用し、生活や活動の様子を家族や地域に紹介している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの理念を具体的な文を作成しており、日々のケアにおいて実践出来る様に努めている。また、理念と日々のケアを連動させるようにも心がけ、より良い理念を作成出来る様、職員間にて協議も行ってている。	法人の理念・行動指針をもとに、事業所の年間目標・目的を作成している。作成の際は職員も参加して話し合い、また、毎日目にする事務所に掲示し、共有を図っている。朝礼やフロアミーティングの際に立ち戻る機会を設け、実践に向け取り組んでいる。年度末に実践状況を振り返り、次年度の目標・目的に反映させる予定である。	事業所の目標等に、地域密着型サービスの意義を明示することが望まれます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しているが、地域の行事も自粛が継続されており催しに参加出来ていないが、回覧板にて情報を収集している。また、施設として介護相談や施設の状況のご案内、AED機器の設置案内をし地域との関わりを心掛けている。	自治会に加入し、会合への参加や回覧板を通して、地域とつながりが持てるよう取り組んでいる。事業所から介護相談会の開催やAED設置について情報発信し、地域貢献につながるよう努めている。地域行事参加への案内もあり、今後、地域との交流が広げられるよう計画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談会の提案、AED設置のご案内をさせて頂き、地域資源として活用等して頂けるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当ホームの運営状況等のご報告をさせて頂き、構成員の方より要望など頂いております。	利用者・家族・地域住民代表(自治会長)・地域包括支援センター職員・知見者(他事業所管理者)を委員としている。令和4年7月は会議を開催し、それ以前は、2ヶ月に1回活動報告書を全家族を含む委員に郵送している。活動報告書で、活動状況・コロナ対策・行事・事故ヒヤリハット事例等を報告している。また、意見書を同封し、返信があれば次回の会議で共有し、書面でも意見・情報交換できるよう工夫している。会議開催時には、認知症の理解についての情報共有も行った。運営推進会議ファイルを玄関に設置し、公開している。	

グループホームリール小松

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市・区の担当者とは連絡・相談等はさせて頂いております。	運営推進会議や地域包括支援センター主催の「なかよし」を通して、地域包括支援センターとの連携がある。不明な点等があれば、随時市や区の担当者に問い合わせ、適切な運営につなげている。区のケースワーカーと協働し、利用者支援を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間研修計画にて、年2回以上全職員対象での研修は予定しております。研修をするにより正しい理解と拘束しないケアを考え、実践するように職員間にて協議し対応するように取り組んでおります。	身体拘束をしないケアを実践している。「身体拘束・虐待防止委員会」を発足し、「身体拘束適正化指針」の整備と、委員会の定期開催に向けて取り組んでいる。年間研修計画に位置づけ、12月に「身体拘束の排除の為の取り組みに関する研修」を予定している。各ユニットのドアは開錠操作が必要であるが、外出の要望があれば戸外に出て気分転換を図り、閉塞感を感じないよう努めている。	「身体拘束適正化指針」の整備、委員会の定期開催後には、職員の周知が望まれます。また、研修実施後には、実施記録の整備が望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員対象にて、年2回以上研修を行い正しい知識を学ぶとともに、会社全体で防止に取り組んでおります。また、自己チェック表を作成し自身のケアを振り返る機会を設けたいと考えます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護マニュアルを作成しております。また、年間研修計画にて権利擁護に関する研修も設けております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、ご利用者様・ご家族様にご説明させて頂き、不安や疑問等の解消に努め、ご理解ご納得して頂けるように詳しくご説明させて頂いております。		

グループホームリール小松

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様からは日常会話の中から要望等をくみ取るようにし、ご家族様からはご来訪時や電話にて要望等をお聞きするように努めて対応させて頂くようにしております。ご意見箱の設置や管理者の携帯電話へ連絡をして頂く体制です。	利用者の意見・要望は、日々の会話や様子から把握に努め、タブレットの申し送り等で共有している。家族には、面会時・来訪時・電話連絡時に近況を報告し、意見・要望の聞き取りを行っている。「リール便り」を毎月発行し、フェイスブック・インスタグラムを頻りに更新し、生活や行事の様子を写真と文章でわかりやすく伝え、意見・要望が表しやすいよう取り組んでいる。家族の意見・要望等は管理者が集約し、職員とも共有し、支援に反映できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各フロアミーティングに管理者が参加しており、意見や提案等を直接聞く機会を設けております。また、意見や要望等を反映させて頂くようにも努めております。	毎月各フロアミーティングを開催し、管理者も参加し、職員の意見・提案を利用者のケアや業務に反映できるよう取り組んでいる。職員から出された日々の検討事項は管理者が集約し、タブレット内の申し送りで、経過や決定事項を共有している。定期的には年4回、また、随時にも、管理者が個人面談を行い、職員の意見等を個別に聞く機会を設けている。施設全体会議や社長面談等、代表者に意見を伝える機会も設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況を把握し状態に合わせた研修参加等にて知識・技術向上・やる気を持って勤務して頂けるような対応を心掛けております。各種研修への参加費負担等、良い福利厚生が出来る様努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の能力や状態等に合わせた研修等への参加を促しております。研修への参加する機会を設け、個々のスキルアップの場となるようにしております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括や同業者との研修会、会合等へ参加させて頂き交流や情報交換、関係性の構築やサービスの向上につながるよう取り組んでおります。		

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様と面談回数を多く設け要望やお困りごと等をお聞きし不安なくサービスを受けて頂けるように努めております。介護職員同行にて面談させて頂き信頼関係を構築出来る様考えております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様との面談時に要望や不安に思われている事をお聞きし安心、納得をし不安なくサービスを受けて頂けるように詳しくご説明を差し上げるよう心がけております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談や見学等の時に現状にて本当に必要なサービスは何かを考え、入居に至らなくともご相談をさせて頂いております。「介護相談窓口」地域資源として活用して頂ければと思います。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様の気持ちを尊重しお互いが共感し支え合い信頼できる関係性となるように努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様・職員がお互いに協力、相談しながらご利用者様も支援を行っております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容院や病院等、入居以前より行かれていた馴染みのある場所への外出や入居前からの知人の面会等、入居後も関係が途切れないよう支援を心掛けております。	時期を勘案しながら、家族・親族・知人と面会できる機会作りを行い、また、入居以前から利用している美容院やかかりつけ医への家族との外出を支援する等、馴染みの人や場所との関係が継続できるよう支援している。	

グループホームリール小松

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様同士が関わりを持ち支えながら良好な関係を築いていけるような支援を心がけ良好な関係が保たれるようにも気を付けております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もお見舞いに行かせて頂く等、関係を継続し退去後もご連絡、ご相談をして頂ける体制を作っております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居者様との会話や表情、仕草等からご要望やご意見をくみ取れるように心がけております。困難な時にはご本人様の立場になって考え把握出来る様努めております。	利用者の思いや暮らし方の希望について、入居時に把握した内容は「フェイスシート」に記録し、介護計画に反映している。入居後の日々の会話の中で把握した内容は、「介護記録」に記録し、支援や介護計画更新時に反映できるよう取り組んでいる。把握が困難な場合は、コミュニケーション方法を工夫したり、表情等から汲み取って職員間で共有し、利用者の意向に沿った生活を支援できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族様より、これまでの生活歴等をお聞きし把握するように努めております。入居後も出来るだけご自分のペースで今までの生活を継続して頂けるように心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の入居者様の状態などを把握し出来るだけご自身のペースで生活して頂けるように支援している。また、変化のある時には対応を検討するとともに情報等をカンファレンス等に共有している。		

グループホームリール小松

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご入居者様、ご家族様よりご要望等をお聞きし本人様にとって良い介護計画になるように作成しております。また、かかりつけ医や看護師からのアドバイスも頂きながら現状に即した介護計画を作成出来るよう努めている。	入居時に把握した情報を「フェイスシート」に記録し、初回の計画書を作成している。実施内容を「介護記録」に記録し、情報共有している。検討事項があれば、毎月のフロアミーティングで検討し、定期的には6ヵ月毎に介護計画の見直しを行っている。見直し時には、「モニタリング総括表」でモニタリングを行い、サービス担当者会議を実施している。主治医など、関係者の意見も反映している。	・モニタリング時は、評価も記入することが望めます。 ・再アセスメントは、統一した書式で実施してはどうか。 ・記録システムを活用する等、計画に沿った実施が明確になる記録の工夫を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月、ケアカンファレンス・モニタリングを実施し情報の共有をしながら介護計画の見直しを行っている。また知り得た情報を共有し日々の生活等、個別の記録も記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様のご要望により可能な限り柔軟な対応、支援をさせて頂けるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みのある美容院などを利用したり、地域の催し物への参加、知人の方の面会等、ご本人様が楽しく暮らせるような支援を心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から馴染みのある医院への通院等、ご入居者様、ご家族様のご希望により対応させて頂いております。通院介助や同行等も行い、適切な医療を受けられるよう支援をさせて頂いております。	入居時に確認し、利用者・家族の意向に沿った受診を支援している。内科・精神科・歯科の往診を受けられる体制がある。通院での受診には家族が同行し、必要に応じて事業所から文書で情報提供することとしている。看護師の配置があり、健康管理、体調変化時の対応、往診の立ち合い等を行い、医療連携体制を整備している。往診については「往診連絡票」に、通院については「介護記録」に記録している。	

グループホームリール小松

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご入居者様の状況、状態等医療機関の看護師の方へ報告、相談させて頂き適切な医療や処置を受ける事が出来るように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関へ情報提供を行いご家族様、医療機関と連携、情報交換を行いご入居者様の状態を把握出来るように努めております。入院中の情報などは職員間にて共有しています。また、医療機関とは日頃より連携をしスムーズに入退院が出来るよう関係作りを行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については入居説明時よりご説明させて頂きご理解して頂いた上でご入居をして頂いております。また、重度化した場合にかかる指針、看取りに関する指針にそってご家族様、かかりつけ医、職員とでチームケアに取り組んでいくようにしております。	入居時に、「重度化した場合にかかる指針・看取りに関する指針」に沿って事業所の方針を説明し、文書で同意を得ている。現在までに、重度化・看取りの事例はない。今後、事例があれば、主治医を交えて家族に状況と事業所の方針を説明し、事業所での看取り介護を含め、家族の意向に沿った支援を行うこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医や看護師に緊急時の指導を受けるとともに緊急時マニュアルを作成し緊急時に備えております。「AED講習」やIF事務所にAED機器の設置等、意識向上に努めております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練、非常時災害避難訓練を予定し火災、災害時への危機意識向上に努めてまいります。また、近隣の方へのご案内や非常時の協力体制等、地域の方との連携も密にしております。	年2回の消防訓練・非常時災害避難訓練を計画し、9月に消防訓練を予定している。年間研修計画に位置づけ、「非常災害時の対応に関する研修」も予定している。運営推進会議や自治会を通して、地域との協力体制が築けるよう取り組む予定である。施設内に3日分の備蓄を行い、管理者が管理している。	

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として人格や尊厳を大切にしプライバシーを損ねないような対応を心がけております。また、接遇態度、プライバシー保護、個人情報の取扱い等の研修を行い意識した対応に努めております。	プライバシー保護・認知症及び認知症ケア・高齢者虐待防止・身体拘束の排除等に関する研修を年間研修計画に位置づけ、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について、意識向上に努めている。気になる対応等があれば、適宜、管理者が助言や注意喚起を行っている。個人ファイルは事務所内の鍵のかかる棚に保管し、写真や映像の掲載は契約時の確認事項で意向を確認し、個人情報・プライバシー保護を実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様が自己決定、自己選択出来るような環境や雰囲気作りを心掛けております。また、困難な時にはご本人様の立場や思い等を考えて支援させて頂いております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者様の生活習慣を把握しご自身の生活リズムで過ごして頂けるような支援を心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご入居者様の身だしなみに配慮しおしゃれを楽しんで頂けるような支援を心がけておりご本人様のご希望に添えるような対応にも努めております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人様の好みや状態に合わせて食事を楽しんで頂いております。また、可能であれば食器洗いなど後片付けもお手伝いして頂き生活感も感じて頂いております。	各ユニットで炊飯と汁物調理を行い、隣接する法人内施設の厨房で調理された食事を盛り付けて提供している。献立には、季節感・行事食・郷土料理等の工夫がある。必要に応じて、個別の食事形態にも厨房が対応している。毎月1回、給食会議を開催し、各施設からの意見を、献立や調理方法に反映している。家庭的な雰囲気を大切に、食器やお盆の素材に配慮している。月に数回、おやつレクリエーションを企画し、利用者も参加できるよう支援している。日常的にも、可能な利用者が食器洗いや後片付けに参加できるよう支援している。	

グループホームリール小松

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご入居者様の状態に合わせた食事、水分形態で提供させて頂き栄養の確保を献立表にて把握しております。主治医に報告、連絡、相談にてアドバイスを頂いております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを毎食後に実践し衛生状態に配慮しております。その方の状態に合わせた口腔ケアを実践し歯科医へも連絡、報告、相談にてアドバイスを頂いております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄状況を把握した上で声かけや誘導を行いトイレで排泄して頂けるよう自立に向けた支援を心がけております。安易にオムツを使用するのではなくトイレでの排泄をして頂けるように支援している。	「排泄チェック表」で、利用者個々の排泄状況や排泄パターンを把握している。排泄の自立度が高く、必要に応じて声かけや誘導を行い、トイレでの排泄の継続・自立に向けた支援を行っている。支援方法や排泄用品等について検討が必要な場合は、フロアミーティングやタブレット内の申し送りで見・情報交換を行い、現状に即した支援につなげている。トイレのドアの開閉や声かけ時の配慮について、職員間で周知している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご入居者様の体調や状態を把握し適度な運動や水分補給にて便秘の予防に努めております。食事量、水分量の記録を行い主治医と連携を取りながら便秘予防に努めております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人様の希望により入浴を楽しんで頂いております。週2～3回の入浴を基本としながらご入居者様の要望に沿って対応させて頂いており入浴を拒否される方については更衣や足浴、清拭等にて清潔保持に努めております。	週2～3回を基本とし、利用者の体調・希望・生活習慣等に合わせた入浴支援を行っている。一般浴の個浴槽で、一人ずつ湯を入れ替え、自分のペースで入浴を楽しめるよう支援している。同性介助の希望に対応する、拒否が強い場合は保清方法を工夫する、希望に応じて入浴剤を使用する等、個別の配慮を行っている。入浴の実施状況は、「チェック表」で把握している。	

グループホームリール小松

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご入居者様の生活習慣を尊重しご自身のリズムで過ごして頂けるように支援しております。体調不良、睡眠不足等の時は休んで頂くなど状況に合わせた対応を心がけております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、看護師、薬剤師の指導のもと適切な薬剤管理、服薬管理を行っております。また、薬剤や体調等のご相談やアドバイスも頂き体調管理に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中での楽しみや刺激等を考えながら支援させて頂いております。また、その方に合わせた個別ケアを実践出来るように心がけております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご入居者様のご希望により散歩や買い物、外出支援が出来るように心がけております。福祉車両での送迎も出来る為、車椅子の方の遠方への外出も楽しんで頂けるようにしております。	外出が困難な状況であるが、時期や時間帯を勘案しながら、公園や近隣への散歩に出かける機会を設けている。また、初詣・花見・菖蒲園への季節の外出行事を行い、福祉車両を活用し全利用者が参加できるよう支援している。玄関前や事業所周囲の手入れの行き届いた花壇に出て、利用者が季節を感じたり、水やりや美化活動を行う等、戸外で活動したり気分転換する機会作りも行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	新型コロナ感染症対策を行政指導のもと行っており、感染症対策のため、買い物外出を行っていない。感染症の状況を見ながらの開始を検討中		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各フロアに固定電話を設置しておりご入居者様自らお電話をして頂く事も可能ですし、こちらからも声かけをさせて頂きお話をさせて頂く等の支援をしております。		

グループホームリール小松

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各フロア入居様と作成した作品や季節感のある飾り付けを行い居心地の良い空間となるように心がけております。温度、湿度調整にも配慮し落ち着いて過ごして頂けるように心がけております。	共用空間は広く、窓からの採光が良く、白い壁と木調のフロアで明るく、清潔感がある。テーブル席・ソファコーナーがあり、大型のテレビやマガジンラックが設置されている。廊下は広さ、長さがあり、歩行練習を行ったり、一人で過ごせるベンチ席も設置されている。毎月利用者と一緒に制作する季節に因んだ作品を飾り、季節感が感じられる。キッチンがあり、利用者も食事の後片付け、洗濯物干し・たたみ、掃除等に参加し、生活感を取り入れている。健康体操・歩行練習・家事参加・毎日のレクリエーション等、共用空間での日中活動を通して、心身の機能低下予防に取り組んでいる。温湿度管理・換気・消毒を適宜行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置し一人や馴染みのある方とお話出来るスペースを確保しております。また、状況により模様替えをする等柔軟に対応しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使用されていた家具ゆい使い慣れた物をお持ち頂き過ごしやすい居室となるように支援しております。また、安全にも配慮しながら模様替えもさせて頂いております。	居室にベッド・大型のクローゼット等を設置し、表札に個々の花のイラストをつけて表示している。筆筒・テーブル・椅子・テレビ・冷蔵庫・時計・写真等、使い慣れた物や馴染みの物が持ち込まれ、居心地よく過ごせるよう環境を整備している。利用者の動線に応じたレイアウト、目印や張り紙での表示等、安全で自立した生活が継続できるよう個別の配慮を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スロープや手すりを設置し自立した生活が出来るように支援しております。また、目印や張り紙等にてご自身で判断して頂けるような環境作りを心がけております。		